

会 議 録

1 附属機関の会議の名称 令和5年度第2回水戸市文化財保護審議会

2 開催日時 令和5年11月22日(水) 午後1時30分から
午後3時00分まで

3 開催場所 水戸市役所本庁舎3階 教育委員会室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

大津 忠男, 栗原 邦俊, 黒澤 彰哉, 永井 博, 藤本 陽子, 安 昌美, 安田 一男, 由波 俊幸
(50音順)

(2) 執行機関

関口 慶久, 森田 信行, 富永 慧, 杉岡 有里乃, 柿澤 晟也, 杉森 祐貴, 角田 悦子

(3) その他

なし

5 議題及び公開・非公開の別

(1) 審議事項

ア 市指定文化財指定候補物件の諮問について(非公開)

イ 市地域文化財認定候補物件の諮問について(非公開)

(2) 報告事項

ア 水戸市文化財保存活用地域計画について(公開)

(3) その他(一部非公開)

6 非公開の理由

(1)審議事項については、文化財等の価値についての協議で、結果についての公表がなされる以前に公開されることで、情報の混乱及び特定の者に不当な利益若しくは不利益を及ぼすおそれがあり、水戸市情報公開条例第7条第5号に掲げる不開示情報に該当するため非公開とします。

(3)その他については、文化財等の価値についての協議で、結果についての公表がなされる以前に公開されることで、情報の混乱及び特定の者に不当な利益若しくは不利益を及ぼすおそれがあり、水戸市情報公開条例第7条第5号に掲げる不開示情報に該当するため一部非公開とします。

7 傍聴人の数（公開した場合に限る。）

0人

8 会議資料の名称

- ・ 令和5年度第2回水戸市文化財保護審議会(11月22日開催)資料
- ・ 令和5年度第2回水戸市文化財保護審議会(11月22日開催)別紙資料

9 発言の内容

(1) 審議事項

ア 市指定文化財指定候補物件の諮問について（非公開）

イ 市地域文化財認定候補物件の諮問について（非公開）

(2) 報告事項

ア 水戸市文化財保存活用地域計画について

事務局 : (説明)

委員 : 9月28日に第1回の策定会議があり、本審議会も法定機関として組み入れられているため、代表として参加した。本審議会とも協調しながら進めたいとのことなので、特に来年度を中心にこちら話題も多く出ると思う。よろしくお願ひしたい。本件、および全体をとおして意見、質問はいかがか。

全員 : 質疑なし。

(3) その他

事務局 : (教育遺産世界遺産登録推進国際シンポジウムの報告、市立博物館美術部門展示、埋蔵文化財センター企画展、薬王院本堂保存修理工事現場見学会、文化財防火デー防災訓練、市郷土民俗芸能のつどいの案内)

委員 : _____

事務局 : _____

委員 : 地域計画の「人づくり」の項目で学校教育との連携という話があったが、先ほどの薬王院見学会のような現場を子どもたちに見てもらうことは、効果的と考える。歴史館にも校外学習の小中学生が来ることは多いが、あくまでも見せる物を見ている。そうではなく、実際に文化財がどのように造られて活用されているのかという現場を肌で実感してもらおうと、さらに歴史好きな子が増え、文化財に対する意識が変わるのではないか。今の子どもたちは昭和でさえ遠い時代になりつつあり、さらに遡った時代の暮らしには実感が持てないと思う。こ

のような機会があれば、学校にも案内して多くの方に足を運んでもらい、文化財に興味を持ってもらうよう取り組まれない。

事務局 : 薬王院の見学会は、進捗に併せてあと1回開催を検討している。意見は積極的に取り入れていきたい。

委員 : 全国各地の修理現場では、事前に小中学校に連絡をして、校外学習として見学を受け入れている例もある。小学4～5年生が適齢かと思う。今は鉋がけなども工業化が進んでおり、かつての手仕事を町中で見ることができない。文化財の現場を通して、そのようなところも見てもらいたい。

委員 : 事務局でも前向きに検討し、ぜひ実現してほしい。

事務局 : 承知した。

委員 : 世界遺産の国際シンポジウムには、県からは誰か出席しているか。

事務局 : 茨城県からの出席はなかった。他県については即答できないが、基本的には市町村がメインだった。

委員 : 弘道館や偕楽園は県の土木部所管であるため、土木部が積極的に動いてくれないといけないという思いはある。報道で知る限りだが、ブンバル先生は資料調査が大事であると強調しており、建物だけではなくストーリー性も今後は重要である。水戸市はかつて調査したが、継続的に取り組む体制になっていないところが、他の3市とは決定的に違う。研究とはアップデートであり、そのための体制も今後評価の対象になってくるのではないか。もう1点は、関連資料を文化財として捉える必要があるということである。_____

建物については十分調査をしていると思うので、今後は資料等のソフト面の研究体制や、現状あるものの保存活用体制を含めて進めていくことが必要ではないかと思う。